ふりがな　　しおじ　えつろう

氏　名　　**塩路　悦朗**

1. 学歴

1987 年　3 月　東京大学経済学部卒業

1987 年　4 月　東京大学大学院経済学研究科第二種博士課程入学

1990 年 10 月　イェール大学（米国）大学院経済学部博士課程入学

1995 年　5 月　イェール大学（米国）大学院経済学部博士課程修了（Ph. D. in Economics）

2. 職歴・研究歴

1994 年　9 月　ポンペウ・ファブラ大学（スペイン）経済学部助教授

1997 年 10 月　横浜国立大学経済学部助教授

2000 年 10 月　デューク大学（アメリカ）において在外研究（客員研究員，2001 年 4 月まで）

2002 年　4 月　横浜国立大学大学院国際社会科学研究科助教授

2006 年　4 月　一橋大学大学院経済学研究科助教授

2007 年　4 月　一橋大学大学院経済学研究科准教授

2007 年 10 月　一橋大学大学院経済学研究科教授

2011 年　9 月　コロンビア大学（アメリカ）において長期出張（客員研究員，2012 年 9 月まで）

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

（a）学部学生向け

基礎マクロ経済学，マクロ経済学Ⅱ

（b）大学院

上級マクロ経済学，中級マクロ経済学，金融経済論Ⅰ（数値分析），金融経済論Ⅰ（理論分析），金融経済論Ⅰ（実証分析），ワークショップ／リサーチワークショップ（マクロ・金融）

B. ゼミナール

学部後期，大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部 300 番台のマクロ経済学Ⅱの講義においては，現代的なマクロ経済学の中核をなす経済成長理論について深く学ぶことを目的とする。

中級マクロ経済学の講義においては，動学的なマクロ経済学のエッセンスを深く理解することを目的とすると同時に，現代日本経済に関わる実証研究上のテーマについても充分な時間を割く。

上級マクロ経済学の講義においては，動学的なマクロ経済学の数式展開を充分に理解することを主眼としつつ，これら理論の背後にある経済学的ロジックにも目配りする。

金融経済論Ⅰ（数値分析）の講義においては，より進んで，動学的なマクロ経済学のパソコンによるシミュレー

ションが可能となることまでを目標とする。

金融経済論Ⅰ（理論分析）の講義においては，上級マクロ経済学の講義では扱わなかった，マクロ経済の理論モデルを扱う。主なテーマは物価水準の財政理論，バブルの理論など。

金融経済論Ⅰ（実証分析）の講義においては，時系列分析の基礎的な理論と手法を，統計ソフト STATA を用いながら学ぶ。

4. 主な研究テーマ

日本のマクロ経済（銀行のパネルデータをもちいた信用創造過程の実証分析，ニュース情報を用いた財政政策効果の分析，為替レート・原油価格変動の国内物価への転嫁）

5. 研究活動

A. 業績

（a）著書・編著

『経済動向指標の再検討』（経済分析 政策研究の視点シリーズ 19）美添泰人・大平純彦・塩路悦朗・勝浦正樹・元山斉・高瀬浩二・大西俊郎・沢田章・青木周平・北岡智哉・芦沢理恵・前島秀人著，内閣府経済社会総合研究所，2001 年 3 月，208 頁。

『景気指標の新しい動向』（経済分析第 166 号）美添泰人・大平純彦・塩路悦朗・勝浦正樹・元山斉・大西俊郎・沢田章・木村順治・児玉泰明著，内閣府経済社会総合研究所，2003 年 2 月，286 頁。

『ベーシック経済学 一次につながる基礎固め』 古沢泰治との共著，有斐閣アルマ，2012 年 12 月，456 頁。

同 新版，2018 年 12 月，454 頁。

『やさしいマクロ経済学』（日経文庫），日本経済新聞社，2019 年 2 月，208 頁。

（b）論文（査読つき論文には*）

「戦前日本経済のマクロ分析」（吉川洋氏との共著）吉川洋・岡崎哲二編『経済理論への歴史的パースペクティブ』東京大学出版会，第 6 章，1990 年，153-180 頁。

Regional Growth and Migration, Ph. D. thesis, Yale University, 1995.

"Convergence in Output per Capita and Public Capital in Japan： Evidence from the Corrected LSDV Method," 『エコノミア』第 49 巻，第 3・4 号，1999 年 2 月，33-48 頁。

「日本経済の長期的展望と社会資本」『ESP』No. 325，1999 年 5 月，23-27 頁。

* "Identifying Monetary Policy Shocks in Japan," *Journal of the Japanese and International Economies* 14, pp. 22-42 (2000), Academic Press.

「日本の地域所得の収束と社会資本」吉川洋・大瀧雅之編『循環と成長のマクロ経済学』東京大学出版会，第 8 章，2000 年。

「社会資本の生産性効果に非線形性はあるか？」『エコノミック・リサーチ』No. 9，2000 年 3 月，35-41 頁。

「クロス・カントリー・データによる経済成長の分析：サーベイ」『フィナンシャル・レビュー』No.54，2000 年，42-67 頁。

* "Composition Effect of Migration and Regional Growth in Japan," *Journal of the Japanese and International Economies* 15, pp. 29-49 (2001), Academic Press.

* "Public Capital and Economic Growth： a Convergence Approach," *Journal of Economic Growth* 6, pp. 205-227 (2001), Kluwer Publishers.

「経済成長の源泉としての社会資本の役割は終わったか」『社會科學研究』（東京大学）第52巻4号，2001年，53-68頁。

* "Initial Values and Income Convergence: Do "the Poor Stay Poor"?" *Review of Economics and Statistics* 86 (1), pp. 444-446 (2004).

「日本における技術的ショックと総労働時間：新しいVARアプローチによる分析」（R. Anton Braun氏との共著）『経済研究』（一橋大学）Vol. 55，No. 4，2004年10月，289-298頁。

* "Term Structure of Interest Rates and Monetary Policy in Japan," (joint with R. Anton Braun), *Journal of Money, Credit, and Banking* 38 (1), pp. 141-162 (2006).

「金融不安・低金利と通貨需要：「家計の金融資産に関する世論調査」を用いた分析」（藤木裕氏との共著）『金融研究』24（4），2005年12月，1-50頁。

「インボイス通貨とバスケット・ペッグ制度」福田慎一・小川英治編『国際金融システムの制度設計：通貨危機後の東アジアへの教訓』東京大学出版会，2006年2月。

"Estimating urban agglomeration economies for Japanese metropolitan areas： is Tokyo too large?" (joint with Yoshitsugu Kanemoto, Toru Kitagawa and Hiroshi Saito), Chapter 16 of *GIS-based Studies in the Humanities and Social Sciences*, Taylor & Francis Group, LLC (edited by Atsuyuki Okabe), January 2006.

* "Monetary policy and economic activity in Japan, Korea and the United States," (joint with R. Anton Braun), *Seoul Journal of Economics* 19(1) (2006).

* "Invoicing currency and the optimal basket peg for East Asia: analysis using a new open economy macroeconomic model," *Journal of the Japanese and International Economies* 20 (4), pp. 569-589 (2006).

「東アジア内の戦略的相互依存とバスケット通貨制度：人民元改革と東アジア通貨の将来」伊藤隆敏・小川英治・清水順子編『東アジア・バスケット通貨の経済分析』東洋経済新報社，2007年。

「投資ショックと日本の景気変動」（R. Anton Braun 氏との共著）林文夫編『経済停滞の原因と制度（経済制度の実証分析と設計）』勁草書房，第5章，2007年。

「マクロ経済学は「失われた 10 年」から何を学んだか」（チャールズ・ユウジ・ホリオカ，伊藤隆敏，岩本康志，大竹文夫，林文夫との共著）市村・伊藤・小川・二神編『現代経済学の潮流 2007』東洋経済新報社，2007年。

「社会資本の生産力効果の非線形性：大都市圏データによる再検証」大瀧雅之編『平成不況：政治経済学的アプローチ』東京大学出版会，2008年。

「生産性変動と1990年代以降の日本経済」深尾京司編『バブル／デフレ期の日本経済と経済政策：マクロ経済と産業構造』慶應義塾大学出版会，2009年，359-386頁。

*「類別名目実効為替レート指標の構築とパススルーの再検証」（内野泰助との共著）『経済研究』（一橋大学）Vol.61, No.1，2010年，47-67頁。

* "Pass-Through of Oil Prices to Japanese Domestic Prices," (joint with Taisuke Uchino), in Takatoshi Ito and Andrew Rose eds., *Commodity Prices and Markets*, University of Chicago Press, pp. 155-189 (2011).

* "Fiscal policy in a New Keynesian Overlapping Generations Model of a Small Open Economy," (joint with Vu Tuan Khai and Hiroko Takeuchi) 『経済研究』（一橋大学），Vol.62, No.1, 2011年，30-43頁。

「為替レートパススルー率の推移－時変係数 VAR による再検証－」『フィナンシャル・レビュー』，No.106，2011年，69-88頁。

* "Physical capital accumulation in Asia 12: Past trends and future projections," (joint with Tuan Khai Vu) *Japan and the World Economy*, 24(2), pp.138-149 (2012).

"The Evolution of the Exchange Rate Pass-Through in Japan: A Re-evaluation Based on Time-Varying Parameter VARs," *Public Policy Review*, 8(1), pp. 67-92 (2012).

*「資本蓄積･資本破壊と公的投資の生産性について:経済成長モデルによる検証」大垣 昌夫，小西 秀樹，田渕 隆俊，小川 一夫 編『現代経済学の潮流 2012』 東洋経済新報社（2012 年 7 月）第 4 章，93-116 頁。

「非伝統的金融政策の評価―パネル討論 2」（雨宮正佳，岩本康志，植田和男，本多佑三との共著）大垣 昌夫，小西 秀樹，田渕 隆俊，小川 一夫 編『現代経済学の潮流 2012』 東洋経済新報社（2012 年 7 月）第 7 章，193-235 頁。

"The Bubble Burst and Stagnation of Japan", Randall E. Parker and Robert M. Whaples eds., *The Routledge Handbook of Major Events in Economic History (Routledge International Handbooks)*, 2013 年 1 月，第 27 章。

「家計の危険資産保有の決定要因について：逐次クロスセクション･データを用いた分析」（平形尚久，藤木裕との共著），『金融研究』32（2）（2013 年 4 月）63-104 頁。

「生産性要因，需要要因と日本の産業間労働配分」，『日本労働研究雑誌』55（12），pp.37-49。

* " A Pass-through Revival", *Asian Economic Policy Review* 9(1) (2014), 120-138.

* "Time varying pass-through: will the yen depreciation help Japan hit the inflation target?", *Journal of the Japanese and International Economies*,37,2015, pp.43-58.

*「ゼロ金利下における日本の信用創造」，照山博司･細野薫･松島斉･松村敏弘編『現代経済学の潮流 2016』(東洋経済新報社)第 2 章(図書所収論文)，2016 年 8 月，37-73 頁。

「石川賞 10 周年パネル 日本の経済問題と経済学 パネル討論Ⅱ」（玄田有史･大竹文雄･岩本康志･澤田康幸･大橋弘との共著），照山博司･細野薫･松島斉･松村敏弘編『現代経済学の潮流 2016』（東洋経済新報社）第 7 章（図書所収論文），2016 年 8 月，201-245 頁。

「為替レート･輸入品価格の影響力の復権ーー外的ショックの時系列 VAR 分析」，渡辺努編『慢性デフレ 真因の解明』(日本経済新聞社)第 5 章(図書所収論文)，2016 年 9 月，141-171 頁。

*「付加価値生産性と部門間労働配分」内閣府経済社会総合研究所『経済分析』第 191 号（特別編集号），2016 年 11 月，63-93 頁。

「国際競争がサービス業の賃金を抑えたのか」玄田有史編『人手不足なのになぜ賃金が上がらないのか』（慶応義塾大学出版会）第 10 章（図書所収論文）2017 年 4 月，151-164 頁。

「銀行行動と貨幣乗数の低下--量的緩和政策は貸出を拡大したか--，福田慎一（編著）『金融システムの制度設計 -- 停滞を乗り越える，歴史的，現代的，国際的視点からの考察』（有斐閣）第 7 章（図書所収論文），2017 年 11 月，173-195 頁.

* "Quantitative `flooding' and bank lending: Evidence from 18 years of near-zero interest rate", *Journal of the Japanese and International Economies* 2019，掲載確定。

（c）翻訳

J. A. フレンケル･A. ラジン著『財政政策と世界経済』河合正弘監訳，千明誠･村瀬英彰･塩路悦朗･今井晋･杵渕美智子訳，HBJ 出版局，1990 年（原題 Fiscal Policies and the World Economy, MIT Press, 1987 年）。

（d）その他

「異次元の金融政策」,『日経研月報』(シリーズ「検証・アベノミクス」第 2 回)436, 2014 年 10 月, 16-25 頁。

「第 1 の矢：大胆な金融政策ー予想は変えられるか？」,『Eco-forum』(特集：「アベノミクスを考える」)30(2), 2014 年 11 月。

「為替レートのパススルー」,『経済セミナー』2016 年 8・9 月号(日本評論社), 39-44 頁。

「日次・週次データを活用した経済分析への期待：ガソリン価格の例から」, NOWCAST 社, NOWCASTATS マンスリーレポート, 2016 年 11 月 16 日。

「物価水準の財政理論と非伝統的財政・金融政策：概観」, 財務総合政策研究所ディスカッションペーパー, 2018 年 4 月／18A-07(通巻 324 号)。

「エディトリアル　経済の活性化：我が国企業と家計が直面する構造的な課題」『経済分析(特別編集号)』2019 年, 掲載確定

B. 最近の研究活動

（a）国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

"Time varying pass-through: will the yen depreciation help Japan hit the inflation target? " 22nd Symposium of the Society for Nonlinear Dynamics and Econometrics（2014 年 4 月 18 日, City University of New York, Baruch College(米国).

"Construction of stock-market based daily index of fiscal news for Japan"(森田裕史との共著), 東京大学マクロ経済学ワークショップ（2014 年 5 月 8 日, 東京大学) .

"Time varying pass-through: will the yen depreciation help Japan hit the inflation target? " Econometric Society European Meeting（2014 年 8 月 27 日, トゥールーズ第 1 大学(フランス)).

"Construction of stock-market based daily index of fiscal news for Japan"（森田裕史との共著), 日本経済学会 2014 年度秋季大会(2014 年 10 月 12 日, 西南学院大学).

*「財政政策に関する日次指標の構築」(森田裕史氏との共著), IISS ワークショップ / RIEB 政策研究ワークショップ「マクロ財政・金融政策効果の実証的評価」(2014 年 10 月 25 日, 神戸大学).

「財政政策に関する日次指標の構築」(森田裕史との共著)関西マクロ研究会(2014 年 12 月 19 日, 大阪大学中之島センター).

"Construction of stock-market based daily index of fiscal news for Japan"（森田裕史との共著), Japan Economic Seminar（2015 年 2 月 20 日, コロンビア大学(米国)).

*「ゼロ金利下における日本の信用創造」日本経済学会 2015 年度春季大会(招待講演), 2015 年 05 月 24 日, 新潟大学(新潟県新潟市).

"Construction of Stock-Market Based Daily Index of Fiscal News for Japan" グローバル金融危機後の新しい金利・為替評価手法の構築, 2015 年 06 月 05 日, 一橋大学(東京都国立市).

"Construction of Stock Market-Based Daily Index of Fiscal News for Japan" PET15 Luxemburg(国際学会), 2015 年 07 月 04 日, ルクセンブルク大学(ルクセンブルク市(ルクセンブルク)).

「ゼロ金利下における日本の信用創造」, SWET2015(マクロ金融), 2015 年 08 月 08 日, 北海道大学(北海道札幌市).

"Construction of Stock Market-Based Daily Index of Fiscal News for Japan", EEA 30th Annual Congress(国際学会), 2015 年 08 月 25 日, マンハイム大学(マンハイム市(ドイツ)).

「質的・量的緩和期の信用創造」, 設研アカデミックセミナー, 2015 年 10 月 02 日, 設備投資研究所(東京都千

代田区).

*「石川賞 10 周年パネル 日本の経済問題と経済学」(玄田有史・大竹文雄・岩本康志・澤田康幸・大橋弘との共同参加), 日本経済学会 2015 年度秋季大会 2015 年 10 月 11 日, 上智大学(東京都千代田区).

「ゼロ金利下における日本の信用創造」, 一橋大学商学研究科 第 19 回金融研究会, 2015 年 11 月 19 日, 一橋大学(東京都国立市).

「ゼロ金利下における日本の信用創造」, 慶応義塾大学 マクロ経済学ワークショップ, 2015 年 12 月 08 日, 慶応義塾大学(東京都港区).

"A New Daily Indicator for Fiscal News in Japan", AJRC and HIAS joint conference on recent issues in finance and macroeconomics, 2016 年 3 月 22 日, オーストラリア国立大学(メルボルン市(オーストラリア)).

「ゼロ金利下における日本の信用創造」, 日本金融学会 2016 年度春季大会, 2016 年 5 月 14 日, 武蔵大学(東京都練馬区).

"Quantitative 'Flooding' and Bank Lending: Evidence from 14 Years of Near-Zero Interest Rate", Korea University's Money/Macro seminar (joint with the Inclusive Growth & Economic Stability Research Center in Korea economic team for BK21+), 2016 年 5 月 18 日, 高麗大学(ソウル市(韓国)).

"Extracting fiscal policy expectations from daily stock returns", Time Series Workshop on Macro and Financial Economics, 2016 年 05 月 21 日, 成均館大学(ソウル市(韓国)).

"Extracting fiscal policy expectations from daily stock returns", Hitotsubashi Summer Institute, 2016 年 8 月 5 日, 一橋大学.

"Quantitative 'Flooding' and Bank Lending: Evidence from 14 Years of Near-Zero Interest Rate", The 2016 Asian Meeting of the Econometric Society, 2016 年 8 月 11 日, 同志社大学(京都府京都市).

"Quantitative 'Flooding' and Bank Lending: Evidence from 14 Years of Near-Zero Interest Rate", European Economic Association Annual Congress 2016, 2016 年 8 月 24 日, Graduate Institute of International and Development Studies 及び University of Geneva (Geneva School of Economics and Management).

"Extracting fiscal policy expectations from daily stock returns", 10th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE 2016), 2016 年 12 月 11 日, Higher Technical School of Engineering, University of Seville."Extracting fiscal policy expectations from a cross section of daily stock returns", 日本経済学会春季大会, 2017 年 6 月 25 日, 立命館大学(滋賀県草津市).

"Extracting fiscal policy expectations from a cross section of daily stock returns", IAAE (International Association for Applied Econometrics) 2017, 2017 年 6 月 28 日, ホテルエミシア札幌(札幌市).

"Extracting fiscal policy expectations from a cross section of daily stock returns", APEA (Asia-Pacific Economic Association) 2017, 2017 年 7 月 15 日, 高麗大学(韓国ソウル).

「量的・質的金融緩和期における日本の信用創造」, SWET (Summer Workshop on Economic Theory) 2017 マクロ金融, 2017 年 8 月 5 日, 北海道大学(札幌市).

"Money Creation under the Quantitative and Qualitative Easing Policy: Evidence from a Panel Data of Japanese Banks", 日本経済学会秋季大会, 2017 年 9 月 9 日, 青山学院大学(東京都).

「物価水準の財政理論(FTPL)と非伝統的財政金融政策), 財務総合政策研究所先端セミナー, 2017 年 9 月 22 日, 財務省(東京都).

「量的・質的金融緩和期における日本の信用創造」, 日本金融学会秋季大会, 2017 年 9 月 30 日, 鹿児島大学(鹿児島県鹿児島市).

"Fiscal Confidence Shocks and the Market for the Japanese Government Bonds", HIAS, IER and AJRC Joint

Workshop "Frontiers in Macroeconomics and Macroeconometrics", 2017 年 11 月 4 日，一橋大学（東京都国立市）.

"Fiscal Confidence Shocks and the Market for the Japanese Government Bonds", CFE (Computational and Financial Econometrics) 2017, 2017 年 12 月 18 日，ロンドン大学（英国ロンドン）.

"Extracting fiscal policy expectations from a cross section of daily stock returns", 研究セミナー，2018 年 1 月 24 日，千葉大学（千葉県千葉市）.

"Fiscal Confidence Shocks and the Market for the Japanese Government Bonds", 26th Symposium of the Society of Nonlinear Dynamics and Econometrics, 2018 年 3 月 19 日，慶応義塾大学（東京都）.

"Quantitative 'Flooding' and Bank Lending: Evidence from 18 Years of Near-Zero Interest Rate", 金融班月例会，2018 年 4 月 20 日，設備投資研究所（東京都）.

"Fiscal Confidence Shocks and the Market for the Japanese Government Bonds", 日本金融学会 2018 年度春季大会，2018 年 5 月 27 日，専修大学（神奈川県）.

"Fiscal Confidence Shocks and the Market for the Japanese Government Bonds", HSI2018−The 4th Hitotsubashi Summer Institute，2018 年 8 月 3 日，一橋大学（東京都国立市）.

"Infrastructure Investment News and Business Cycles: Evidence from the VAR with External Instruments", SWET (Summer Workshop on Economic Theory) 2018，財政，2018 年 8 月 6 日，北海道大学（札幌市）.

"Fiscal Confidence Shocks and the Market for the Japanese Government Bonds", 日本経済学会 2018 年度秋季大会，2018 年 9 月 9 日，学習院大学（東京都）.

*「財政赤字への不安感は本当にないのか？ー国債先物オプションデータの検証」，科研費・研究集会「アベノミクスは長期低迷を克服したのか？」2018 年 11 月 30 日，神戸大学（神戸市）.

"Fiscal Confidence Shocks and the Market for the Japanese Government Bonds", 公共選択学会第 22 回全国大会），2018 年 12 月 1 日，横浜商科大学つるみキャンパス（横浜市）.

"Infrastructure Investment News and Business Cycles: Evidence from the VAR with External Instruments", 12th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE 2018)，2018 年 12 月 15 日，ピサ大学（イタリア）.

*「失われた 20 年で日本企業は変わってしまったのか―なぜキャッシュをため込むのか、設備投資はどこに向かうのか―」，ESRI 経済政策フォーラムー企業が直面する不確実性と設備投資・企業行動ー，2019 年 2 月 26 日，イイノカンファレンスセンター（東京都）.

*"Pass-through of Oil Supply Shocks to Domestic Gasoline Prices: Evidence from Daily Data", 2019 Workshop on Energy Economics: Econometric Analysis of Energy Demand and Climate Change，2019 年 5 月 25 日，成均館大学（韓国ソウル市），報告確定.

（b）国内研究プロジェクト

科学研究費補助金基盤（C）「大災害後における公共投資のマクロ経済効果」2012 − 2014 年度，代表者 塩路悦朗

科学研究費補助金基盤研究（S）「長期デフレの解明」2012 − 2016 年度，代表者 渡辺努

一橋大学経済研究所経済社会リスク研究機構 研究員（兼任）

科学研究費補助金基盤（C）「量的緩和政策下の銀行行動と実体経済」2015 − 2017 年度，代表者 塩路悦朗

公益財団法人野村財団，金融・証券のフロンティアを拓く研究助成，「資産価格情報による財政政策に関する将来予想指標の構築」2016 − 2019 年度，代表者 塩路悦朗

科学研究費補助金基盤（A）「新たなマクロ計量モデルの構築と大規模データを用いた経済予測への応用」2017－2019 年度，代表者 渡部敏明

科学研究費補助金基盤（C）「非伝統的金融政策の日本国債市場を通じた波及効果」2018－2020 年度，代表者 塩路悦朗

（c）国際研究プロジェクト

一橋大学社会科学高等研究院グローバル経済研究センター，"Development of Macroeconometric Models with Applications to Macroeconomic Problems"，代表者 渡部敏明

ESRI 国際共同研究「経済の活性化：我が国企業と家計が直面する構造的な課題」，2017 － 2018 年度，主査 塩路悦朗

（d）研究集会オーガナイズ

第 16 回マクロ･コンファレンス（渡辺努，阿部修人，祝迫得夫，小野善康，櫻川昌哉，小川一夫，青木浩介，廣瀬康生との共同），2014 年 11 月 29－30 日，慶應義塾大学にて開催。

第 17 回マクロ･コンファレンス（渡辺努，阿部修人，小野善康，櫻川昌哉，小川一夫，青木浩介，寺西勇生との共同），2015 年 11 月 7－8 日，一橋大学にて開催。

第 18 回マクロ･コンファレンス（渡辺努，阿部修人，小野善康，櫻川昌哉，小川一夫，青木浩介，寺西勇生との共同），2016 年 11 月 26－27 日，ホテル阪急エキスポパーク（大阪府）にて開催。

第 19 回マクロ･コンファレンス（渡辺努，阿部修人，櫻川昌哉，敦賀貴之，青木浩介，堀井亮，藤原一平との共同），2017 年 11 月 11－12 日，東京大学にて開催。

第 20 回マクロ･コンファレンス（渡辺努，敦賀貴之，小野善康，櫻川昌哉，陣内了との共同），2018 年 11 月 17－18 日，一橋大学にて開催。

TCER，ジェトロ･アジア経済研究所合同コンファレンス，"The Effects of Unconventional Monetary Policy on Emerging Economies"（福田慎一との共同開催），2015 年 3 月 5 日，東京大学。

国際交流セミナー，2014 年 5 月 1 日，同 5 月 22 日，同 7 月 29 日，同 10 月 7 日，同 12 月 15 日，2015 年 1 月 20 日，同 8 月 4 日，同 10 月 27 日，同 12 月 1 日，2016 年 1 月 19 日，同 6 月 14 日，2017 年 6 月 20 日，同 7 月 4 日，同 10 月 17 日，2018 年 10 月 30 日。

C. 受賞

APFA/PACAP/FMA Finance conference（2002 年 7 月 14 － 17 日）Best Paper Award（対象論文："How are macroeconomic risks priced in the Japanese asset market?" R. Anton Braun 氏との共著）

日本経済学会 2015 年度石川賞

6. 学内行政

（a）役員･部局長･評議員等

経済学研究科 評議員（2014 年 4 月 －2016 年 3 月）

役員補佐（2016 年 12 月 － ）

（b）学内委員会

人事委員会委員，予算配分委員会委員，中長期構想委員会委員，法人化後問題対策委員会委員，教育シ

ステム委員会委員長，5 年一貫教育運営委員会委員長，学部入試検討委員会委員長，評価委員会員，マーキュリー・タワー当施設利用委員会委員，外国人留学生選考委員会員，FD 委員会委員長，グローバル化推進委員会委員 （2014 年 4 月 － 2016 年 3 月）
HQ 編集委員（2016 年 4 月 － 2018 年 3 月）
一般社団法人　一橋大学知識共創機構　理事（2018 年 1 月 16 日 － ）

7. 学外活動

（a）他大学講師等

日本銀行「理論研修」講師，1998 年 － 2010 年，2013 年 － 現在（初級マクロ経済学）
国土交通省国土交通大学校「政策企画教養研修」講師，2017 年，2018 年（マクロ経済学総論）
財務省財務総合政策研究所「財政経済理論研修」論文作成指導，2017 年，2018 年
ザンクトガレン大学 Executive MBA コース講師，"Macro Perspectives on Japanese Economy"，2018 年 4 月 24 日，一橋大学神田キャンパス（東京都）。

（b）所属学会および学術活動

【所属学会】
American Economic Association
Econometric Society
European Economic Association
日本経済学会
日本金融学会
公益財団法人　東京経済研究センター（TCER）
金融班　副査
Computational and Financial Econometrics (CFE network)

【学会への貢献①　常設の委員など】
TCER ワーキングペーパー　エディター

【学会への貢献②　単発の委員など】
日本金融学会 2016 年度春季大会プログラム委員

【学術誌のための活動①　常設の編集委員】
Japanese Economic Review, Co-editor
The Developing Economies, 編集委員
『金融経済研究』 編集委員

【学術誌のための活動②　特別号の編集責任者】
Journal of the Japanese and International Economies, Guest editor for a special issue: "Abenomics: A New Unconventional Economic Policy Regime in Japan", Volume 37, 2015, joint with Shin-ichi Fukuda.
The Developing Economies, Guest editor for a special issue: "Unconventional Monetary Policy and Emerging

Economies", Volume 54, Issue 1, March 2016, joint with Shin-ichi Fukuda.

Journal of the Japanese and International Economies, Guest editor for a special issue: "Unconventional Monetary Policy in Japan", 2019, joint with Shin-ichi Fukuda.

（c）公開講座・開放講座

一橋大学経済研究所2016年度第5回 一橋大学政策フォーラム「インフレーション：理論と現実」パネル討論モデレーター，2017 年 2 月 17 日。

一橋大学大学院商学研究科主催・みずほ証券共催シンポジウム「Central Banking and Monetary Policy: The Global Economy and Japan（中央銀行行動と金融政策：世界経済と日本）」パネルディスカッション・コーディネーター，2017 年 5 月 17 日，一橋講堂（東京都）。

平成 30 年度第 5 回一橋大学政策フォーラム「日本経済の構造変化と非伝統的金融政策」基調講演司会およびパネルディスカッション「ゼロ金利開始から20 年：日本経済の現状と課題」パネリスト，2018 年 12 月 3 日，一橋講堂（東京都）。

（d）高校生向けの出張講義・模擬講義

埼玉県立春日部高校，2017 年 11 月 15 日

埼玉県立春日部高校，2018 年 6 月 27 日

（e）その他（公的機関・各種団体・民間企業等における講演等）

国際交流基金「KAKEHASHI 若手研究者招聘オリエンテーション」プログラムの特別講義，東京，2014 年 5 月 21 日，同 7 月 8 日，同 9 月 8 日，同 10 月 21 日。

National Consortium for Teaching about Asia 講演，2016 年 6 月 26 日，同 7 月 8 日。

日本経済研究センター・セミナー「物価は何で決まるのか」パネリスト，2017 年 2 月 1 日。

ESRI 国際共同研究「経済の活性化：我が国企業と家計が直面する構造的な課題」研究報告会，（主査として参加）2018 年 1 月 31 日

ESRI 国際共同研究「経済の活性化：我が国企業と家計が直面する構造的な課題」最終報告会，（主査として参加）2018 年 10 月 25 日

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

日本銀行金融研究所 顧問（2018 年 10 月 8 日 － ）

公益社団法人日本証券アナリスト協会 試験委員会 委員

公務員試験専門委員

財務省，IMF 研究会 委員

経済産業研究所，研究委員（2004 年 12 月 － ）

日本学術会議経済学委員会，数量的経済・政策分析分科会（2009 年 6 月 － ）

9. 一般的言論活動

「転機の財政金融政策(中)財政インフレ論にリスクも 民間の信認成功のカギに」『日本経済新聞』「経済教室」2017 年 3 月 15 日。

「【対談】異次元の金融緩和政策をどう評価するか……伊藤隆敏×塩路悦朗」，『経済セミナー』，2018 年 12

月·2019 年 1 月号(705 号), 8-19 頁。